

# セアカゴケグモに注意!

## セアカゴケグモとは?

セアカゴケグモ (*Latrodectus hasseltii*)

【日本: 特定外来生物】

原産地: オーストラリア、東アジア、南太平洋諸国

雌に $\alpha$ -ラトロトキシンという神経毒があり、咬まれると激しい痛みや腹部痙攣を生じさせます。日本では咬傷被害による死亡例はありません。1995年に大阪府と三重県で国内初確認され、現在は日本各地で生息が確認されています。

愛媛県では、2014年に初確認され、現在は各地で散発的に確認されている状況です。

### ■生息場所

自然環境では岩下の隙間や窪みに営巣しますが、人工的環境にも適応可能で、エアコン室外機裏や、道路側溝、自動販売機裏、フェンス基部、長期間放置した車両等に営巣していた事例があります。

### ■営巣

地上部に営巣するクモと異なり、不規則な管状の巣を地表の隙間に作ります。巣には落ち葉等が付着し、クモの巣と判断できないことがあります。

### ■産卵と幼体

野外では一生の間で最大7~8卵嚢を産みます。1卵嚢あたりの卵数は100~200個で、産卵後約20日で幼体が出囊し、雌は約70日、雄は約40日で成熟します。

## セアカゴケグモの外観的特徴



不規則な白斑紋が出ることがあります。

背には黒地に赤い斑紋

歩脚は黒色

体長♀:7-10mm  
♂:2-3mm



セアカゴケグモの卵嚢

1つの卵嚢には100~200個の卵が入っています。

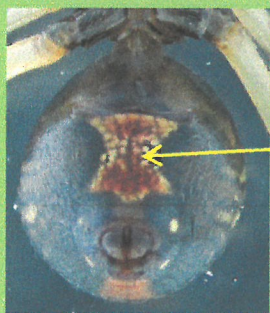


オスが見つかることは稀です。

セアカゴケグモ (雄)



出囊した幼体



腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋  
これはハイイロゴケグモなど、他のゴケグモ属のクモにも共通する特徴です。

## 営巣場所と営巣状況



エアコン室外機の下



側溝のグレーチングの下

### 県内でのその他確認事例

メッシュフェンス基部、石垣の隙間、放置自転車ほか

## 人家周辺で見つかりやすいセアカゴケグモに似た無毒のクモ



写真提供: 鶴崎景巨教授(鳥取大学)

**オオヒメグモ♀**  
人家周辺でもっともよく見られる在来種のコゲグモ(無害)



写真提供: 鶴崎景巨教授(鳥取大学)

**マダラヒメグモ♀**  
人家周辺でよく見られる外来種のコゲグモ(無害)

2種共に、腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋はありません。

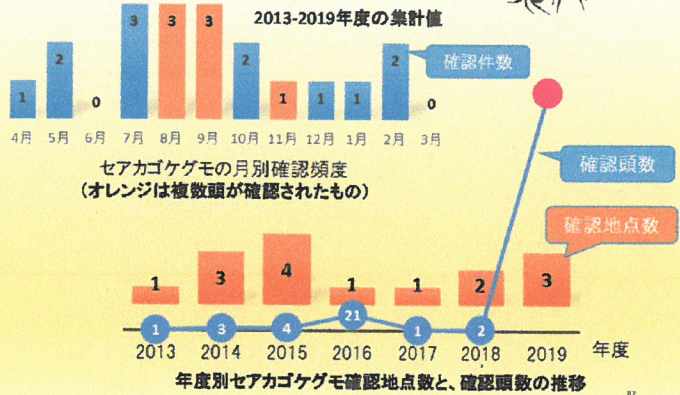
★外来生物被害予防3原則★

入れない 捨てない 拡げない

愛媛県立衛生環境研究所  
生物多様性センター  
〒790-0003 愛媛県松山市三番町8-234  
seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp



## セアカゴケグモの県内の確認状況



## セアカゴケグモの確認と対応状況 (2019年8月26日～30日)

8月26日(月)

新居浜市マリパーク職員がセアカゴケグモ疑い種を4頭捕獲し、市経由で生物多様性センター(以下センター)に報告。写真判別の結果、セアカゴケグモの可能性が高いことから、同日センター職員も現地直行し、現地対応支援。

→37頭捕殺+薬剤散布

8月27日(火)15:00～

市、センター合同調査 →29頭捕殺+薬剤散布、駐車場一部利用制限

8月28日(水)

市職員と施設職員による調査 →駐車場以外に生息確認

47頭捕殺+薬剤散布

8月29日(木)7:00～

調査場所を臨時休業として市職員(環境、港湾関係他)、施設職員、センター職員計30名による生息状況調査 →112+15頭捕殺+業者委託による薬剤散布

8月30日(金)7:00～

市職員、センター職員による追加調査 →モニタリング継続のうえ利用制限解除

市職員による広域調査 →11頭捕殺+薬剤散布

## 取組状況(2019年8月)

